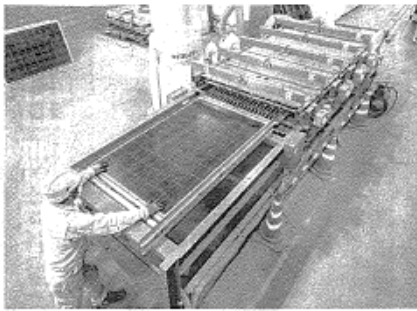


# 再資源化の先行事例次々と

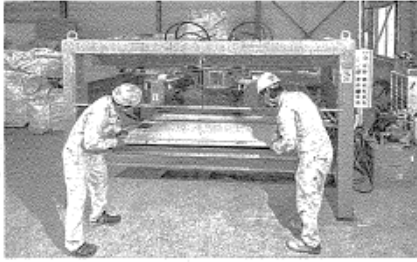
セキゼン

## 100%再資源化を確立

鋼材商社・ナムロンならず、電力会社やメ  
グループで建廃を中心ンテナンス事業者、解  
に産廃処理を手掛ける体業者からの引き合い  
セキゼン(香川県高松市、岩崎一雄社長)も  
087・881・36増加を視野に、処理体  
06)が展開する、使制の拡張を検討してい  
用済み太陽光パネルの同社のパネルリサイ  
リサイクルが好評だ。クル事業は昨年4月か  
当初ターゲットとしたら開始し、チヨタマシ  
ハウスメーカー関連のナリー製のアルミ枠分  
一般住宅用パネルのみ、離装置とガラス分離  
熱しつつ、装置内のハ



ガラス分離装置でパネルを処理




アルミ枠分離装置でフレームを外す

ンマーセガラスを粉砕してカレットとして回  
する仕組みだ。回収したガラスカレットは、レンガ材料や  
グラスウール原料として再利用するルートを確立。バック  
業者との金属リサイクルルートも確保し、100%再資源化する体制を構築した。  
事業開始後、建廃処理の顧客である大手ハウスメーカーからのパネル処理依頼を中心に、引き合いがあったが、次第に太陽光発電施設の保守メンテナンス業者や、パネルの設置業者などからの依頼が増加。また、取業者や解体業者など同業他社からも引き合いが寄せられた。昨年度の処理実績は80枚程度にとどまるが、今年度は第一四半期で1,000枚処理を契約し、年間では500枚ほどになる見通し。電力会社や大手商

社からの見学依頼なども多く、「排出側で再資源化ルートを確認したいという機運が高まっているのでは」と同社の環境直起執行役員は話す。  
今後の排出量増加に向けては、徳島県にある種善保管施設にパネル処理設備を導入して処理の効率化を図っていく考え。さらには主力事業の建廃処理で解体工事部門も立ち上げ、太陽光パネルリサイクルも含めた「気通費」の処理体制を構築する構想もあるという。  
環境執行役員は「パネルリサイクルにいち早く取り組み始めたというアドバンテージを生かしてニーズを捉え、合わせて工場の拡張や新たな拠点の設置など、処理体制の充実を図っていく」と抱負を語った。

廃棄物0へ、  
業界最高水準の  
再資源化の実現を。



セキゼンエコ (香川県高松市)

実際に、四国地方環境事務所が取りまとめた「四国地方における脱炭素創生に資する取組事例集」で同社の取組みが紹介された。他、ローカルSDGs、四国の会員企業として取り組みが紹介される